



宮沢賢治

# 校長室より

暗唱だより

令和8年2月  
第三吾孺小学校  
川中子登志雄

## いよいよグランドスラムに向けて

新しい年が始まって、早いものでもうひと月がたちました。一年のうちでいちばん寒いこの季節、インフルエンザもふたたび流行しはじめています。元気にすごせるように、ふだんの生活から気をつけてください。早起き・早寝、食事(栄養)と運動が大切です。

さて、今年度も残すところ2月、3月のふた月となりました。このところ暗唱チャレンジの挑戦者が少なく、ちょっぴりさみしい思いをしています。今年も、日本語課題、英語課題とも、すべての課題に合格した人には、「グランドスラム賞」をおくります。ぜひ、がんばって挑戦してみてください。

## 2月・3月の暗唱課題は「雨ニモマケズ」(宮沢賢治)

「雨ニモマケズ」は、これまでも何度か課題にしました。私も大好きな「ことば」です。

これは、岩手県花巻に生まれ育った詩人・童話作家の宮沢賢治が、昭和6年ころに東京にいたときに病気をし、死を覚悟してふるさともどったあと、もっていた手帳に、独特のくせ字で書き記した詩です。(課題のほうにその手帳の写真をつけておきました。)

宮沢賢治は明治29年に生まれ、盛岡高等農林学校(今の岩手大学農学部)で農業を学び、卒業後はふるさとの農学校の先生になりました。そこで教えていた時から、たくさんの童話を書き子供たちに読み聞かせていたそうです。しかし、東北の苦しい農民の様子をみているうちに、自分も農民として生きたいと思うようになり、先生をやめて貧しい農家の生活に入りました。そして、世界中の人々が本当に平和で幸せになることを考え続けていました。そのような思いを、詩や童話に書いていったのですが、残念ながら、賢治が生きている間にはその作品は注目を集めることはありませんでした。6年生は国語で、賢治のことを学習しましたね。

皆さんは、賢治の童話をいくつくらい知っていますか？特に有名なものは…「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」「注文の多い料理店」「よだかの星」「やまなし」「オツベルと象」「グスコブドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」「春と修羅」などの作品ですね。(右・賢治のまねをして、自宅近くの田んぼで撮影)

